

第7回 局地的豪雨による被害軽減方策検討会（2011.3.29開催）結果報告

開催日時：2011年3月29日（火）14:00～15:40

場 所：ひょうご共済会館 5F ツツジ

参加者数：委員7名、オブザーバー1名、一般傍聴者（マスコミ含む）5名

◆ 議事概要

● 規約改定について（資料-1）

- 来年度以降、検討会を継続する事に伴う委嘱期間の延長について事務局として提案し、了承を得た。これを受けて規約を改正した。

● 提言（案）について（資料-2,3）

- 「市町、市町村」という言葉を「地方自治体」に入れ替えているが、機関を示すのか場所を示すのかといった観点で区別し、箇所毎に逐次不整合を見ていただきたい。
- 資料-2のP.23上から2行目から始まる文章は長すぎて頭にスッと入ってこなかったのも、分割したほうがいい。
- 資料-2のP20下から3行目の文で、「基図のサイズを自治会ごとにする」とあるが、「設定する」など明確な言葉にする。
- 今後作成する手引きには、「5W1H」だけでなく、リーダーが必要であるなど、マップ作成のティップというか、コツみたいなものも記述することになる。
- 今後作成する手引きには、単に事例だけよりも、マップの最終形がわかるサンプルやテンプレートに記載するとよい。
- 提言に記述するのは5W1Hだけで良いか。
- 今回発生した東日本大震災を踏まえ、専門家は、局地的豪雨の恐ろしさや、何が起こるのかなど、専門家しか知らないことを一般の方に100%分かってもらう努力をすることが大事であることを提言に記述する必要がある。
- 避難時に、最後の最後は、分からない中で一般の方が判断をせざるを得ないことと合わせて、その判断を少しでも実りあるものにするために、専門家は、資料・データ・分析結果などを提示していくことが大事であることを提言に記述する必要がある。
- 瞬時に水が襲ってくる部分や避難が主体となる部分など共通項も見つかると思うので、今回の東日本大震災の震災調査を通して提言の内容をアップデートする必要があることを「おわりに」等に記述する必要がある。
- ものすごく大規模な外力想定をしても、頻度が小さい。それをどの規模まで扱うのかは、投資等を考えると専門家でも判断がつかない。しかし、超過洪水に対して、最悪のシナリオを想定して、もう一手何かを用意しておくことが必要である。
- 避難所の浸水チェックをすればいいだけではなくて、1次避難所とか、2次避難所とか、避

難所そのものの性格を明らかにして、周知しておくことが大事であることを提言に記述する必要がある。

- 国、府県共に市町村に対して応援隊を送っている。被害軽減方策の中でこういうものも、次の復旧、復興に繋がる重要なポイントとしてうまく発信できないか。
- ある程度知識を持った大人の方が被害を受けて、想定を超えるという柔軟な発想があり、怖いという中で逃げた子どもの方が逃げ切れたという事例を聞いた。
- 災害後の行動ということで、地域からNPOが、他の地域からNPOやボランティアが入ってくるとか、そういった行政の受け入れの話について記述しておくことも重要ではないか。
- 今回の東日本大震災で病院が被災しており、佐用町のときも同様であったことから、要援護者は必ず医療機関と、あるいは福祉団体、福祉機関と連動しているので、要援護者と医療機関等との関係についても記述する必要がある。
- 釜石市では学校における津波防災教育を熱心に取り組んでおり、今回の震災でも多くの小中学生が助かっている。この取り組みで大事なことは、小中学生に、逃げたところからもう一回逃げるといふ、実力が付いていたことである。避難について、全てを想定してマニュアルの中で教えても、実際に逃げる方の実力が問われることを記述する必要がある。
- 局地的豪雨について提言書とか手引き等で勉強すると同時に、異なった被災経験を持った自治体同士がマッチングしてつながっていくことが、事前防災にとってもすごく大事である。
- 釜石市の事例では、もう一度逃げることをどのように判断したのか、判断できるものを用意していたことが大事である。状況を見て判断することと、そういう判断ができるための素材をいかに我々が普段から用意できるのが大事なことである。
- 提言のステージは、発災時までを中心に、発災時に起こっている中での避難軽減までを考えていて、復旧・復興については最初から考えていなかった。しかし、復旧につながるような部分も一部あれば、触れておくのがよい。
- 提言(案)の最後のほうについている「宍粟市における社会実験の対応記録」の中で、いろいろなシートの形でまとめられているけれど、こういったものを編集して手引きにしていくのか、イメージを教えていただきたい。
- 今回の社会実験は、優等生といえる地域で実施された。このようなことが成立しない地域があるのではないか。
- 曲里地区はコミュニティがしっかりしている。他の地域ではうまくいかなかったかもしれないが、同様の取り組みをする場合、まず、みんなで集まることが大事である。その中でリーダーを見つけ、各役割を見つけることにより都市部でもやっていける。
- 被害軽減として、万が一被害に遭ったときどうするか。洪水被害というのは結局溺れることであるから、防災グッズとしてライフジャケットを用意するなど、特に浸水が想定される地域に対しては、人命救助の方策を考えておく必要がある。